

# CASBEE<sup>®</sup> 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	LA HOTEL 京都II	階数	地上6F
建設地	京都府京都市南区東九条北松ノ木町38-1	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	305 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2020年4月 予定	評価の実施日	2018年5月16日
敷地面積	1,840.76 m <sup>2</sup>	作成者	(有)一級建築士事務所 ターボ設計
建築面積	811.83 m <sup>2</sup>	確認日	2018年5月18日
延床面積	3,732.71 m <sup>2</sup>	確認者	(有)一級建築士事務所 ターボ設計



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (184 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 63% (116 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の: 62% (114 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

④上記+: 62% (114 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3

Q3 室外環境(敷地内): 2

LR1 エネルギー: 4.3

LR2 資源・マテリアル: 2.6

LR3 敷地外環境: 3.4

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

音環境	3.0
温熱環境	2.0
光・視環境	3.2
空気質環境	2.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

機能性	3.1
耐用性	3.0
対応性	2.5

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.5

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

建物外皮の	4.9
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

水資源	2.2
非再生材料の	2.6
汚染物質	3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

地球温暖化	4.5
地域環境	2.8
周辺環境	2.8

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 断熱性能の高い材料を採用し、建物外皮の熱負荷抑制に配慮。 太陽光発電設備やLED照明を採用することにより、省エネルギー化を図った。		<b>その他</b> 特になし。
<b>Q1 室内環境</b> 屋光率: 居室1.25%以上とし、積極的に屋光利用を行っている。 居室床面積の1/15以上の開閉可能な窓を確保し、利用者の健康・快適性に配慮。	<b>Q2 サービス性能</b> 各種設備の配管は耐用年数の高い材質を採用。 天井高を高くし、客室面積を広くすることにより、心理性・快適性に配慮。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 条例に基づく緑地を確保し、周辺環境に配慮した計画とする。
<b>LR1 エネルギー</b> 太陽光発電の利用、LED照明等、省エネルギー基準をクリアする省エネ設備を採用。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 躯体と仕上材を容易に分別可能。 発泡剤を用いた断熱材等を使用しておらず、環境に配慮。	<b>LR3 敷地外環境</b> LCCO <sub>2</sub> 排出量の抑制に配慮。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される